

学際的・国際的対話と文化経済・政策学の発展

埼玉大学経済科学研究科教授
後藤和子

文化経済学会<日本>が創設されて今年で、16年になる。個人的なことになるが、1992年の春、この学会が創設された翌日に、恩師である池上惇先生（京都大学名誉教授）にお目にかかり、大学院進学を相談したこともあり、この学会の年月と私自身の研究の軌跡は、あざなえる縄のように絡み合いながら、研究者として育てていただいた。

私にとって良かったのは、現場の第一線で活躍しておられる方々が、この学会の会員として参加していらっしゃることで、学際的・国際的広がりを持つ学会であることである。現在、2012年に国際文化経済学会大会（2年に1度、欧州と米国が交互に開催地となってきた）を、日本で開催できないかという提案をしているのは、文化経済学会<日本>創設20周年を記念するメモリアルの1つであることは周知の通りである。

国際的に見れば、現代の文化経済学は、アートの経済学から出発し、文化遺産や文化産業へと文化の定義を広げるとともに、理論的にも大きな変化を遂げてきた。文化に経済学の理論を適用する立場から、ここ10年程は、経済学に文化を適用する立場、換言すれば、文化的価値を、経済的価値とは異なるものとして扱う流れへと変化してきた。

文化経済学が、学際的・国際的な対話を通して発展してきたのは、当然のことではあるが、文化やアートをその対象としているためである。文化とは、アートとは何か、その概念や歴史に関して、美学や美術史、文化人類学等の様々な人文科学から学ぶとともに、文化政策の研究に関しては、政策に関わる法学、社会学、行政学、政治学、経営学等の社会科学、文化政策が展開される空間を扱う都市計画や建築学等からも多くを学んできた。

このような学際性は、一方で、多くの学問分野が、文化政策や創造的産業、都市政策等を研究対象としていること、また経済学そのものが、それらの分析をするなか

で他の学問分野とのコラボレーションを必要としてきたからである。例えば、近年重要性を増している著作権や税制に関しては、法学や租税法とのコラボレーションは必須である。法学は、経済学に契約という概念を導入することによって、経済学の発展に大きなインパクトを与えてきた。

学際的対話を促す他方の要因は、文化政策自体が近年益々分野横断的な広がりを持って展開されるようになってきたことである。筆者は、2001年に編集した『文化政策学』（有斐閣）以来、文化政策が対象とする領域の広がりや、その包括性を根拠に、総合政策としての文化政策という位置づけを主張してきたが、今日では、国レベルにおいても、省庁横断的な政策やシンポジウム等が行われるようになってきている。

例えば、2008年5月に成立した「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」は、文化財の周囲の歴史的風致の形成に関して補助金を出すという、従来の規制を中心とする景観行政を大きく超えるものであるが、文化庁と国土交通省、農水省の共同提案である。また、6月28日には、「障害のある人たちが創造するアート」というシンポジウムが文化庁と厚生労働省の協力で行われた。文化政策と福祉政策の融合である。

ほかにも、文化庁が管轄する著作権は、経済産業省のメディアコンテンツ課が政策の対象とするコンテンツ産業（創造的産業）にも深く関わる。伝統的なクラフトである漆や和紙を現代アートや建築、インテリアに使う試み等は、従来の文化財政策や芸術文化振興政策と、経済産業省の伝統的工芸品産業の関係性について再考する必要を提起しているように思われる。さらに、外務省は、国際社会における日本への理解と関心を高めるために、サブカルチャーを積極的に活用し、コスプレ・サミット等を開催すると同時に、日本文化の深みを伝えるために、

それらと伝統文化を組み合わせるといふ文化広報を行っている。

このような現実、文化経済・政策研究に絶えず新たな刺激と課題を与えてきた。それに対応する理論研究には、国際比較を初めとする国際性が不可欠である。日本の文化経済学研究は、D. スロスビーの文化資本研究、A. クラマーの文化の価値論、B.S. フライの創造性の研究、R. タウスの著作権と市場等の研究から多くを学んできた。また、法と経済学、契約とインセンティブ理論等の経済学の新しい理論を基礎とし、社会学のアートワールドに多くを学んだ R.E. ケイブズの創造的産業の分析は、創造的産業研究にとって不可欠のものである。しかし、国際的対話は、一方的なアイデアの輸入で終わってよいわけがない。日本の現実や政策を踏まえた新たな理論研究や、国際共同研究を踏まえて、日本から学術的成果を発信す

ることが、次のステップとして喫緊の課題であろう。

その際、国際的対話としてのシンポジウムやセミナーの重要性はもちろんのこと、国際共同研究のプロセスそのものも極めて大きな可能性を秘めていることを、ささやかな経験を通して実感してきた。社会科学の宿命であるが、お互いが当たり前のように前提としている社会や制度、文化の違いを乗り越え対話のための共通の基盤を切り開くためには、多くのエネルギーが必要である。しかし、その葛藤を通して見えてくるものは、国内の共同研究では決して得られないものである。

1999年に国際文化経済学会のワークショップを代々木で開催してから、すでに9年になる。文化経済学会<日本>が、その創立20周年に相応しく、さらに高いレベルを目指すためにも国際学会開催は、長年の課題であった。ぜひ、実現させたいものだと思う。

NEWS for Cultural Economics

2008 年度秋の講演会は、宮城県仙台市で開催

秋の講演会を以下のとおり、実施いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

近年日本においても創造都市に関する注目が高まり、政策の理念に掲げる都市が年々増えてきています。しかしながらその一方、従来の開発主義型縦割り政策を引きずったまま、看板の付け替えだけに終わっている例も少なくありません。創造都市時代を迎え個別の状況に応じた具体的な方法論と、政策ではカバーしきれない活動と活動をつなぐ「場」や「草の根的なネットワークづくり」が求められてきています。

2008年度文化経済学会<日本>の秋の講演会では、「100万都市の文化創造」と題して変わりつつある都市仙台をフィールドとしてその方法論に迫ります。大学を街とつなげる拠点として新たに再生された東北大学100周年記念会館川内萩ホールの施設見学会とミニコンサート。開館して7年が経過しながらも開かれた先駆的な建築が活動を引っ張るせんだいメディアテークを会場に、創造都市論の再構成に関する示唆に富んだ基調講演とアート、演劇の創造活動・SCAN等のメディアテークをノードとして展開される活動の数々と刺激的な実践をベースに、集積された活動を都市全体に展開するためのソーシャルキャピタルなどの新

たな関係づくりを見据えながら、100万都市における草の根型の創造都市論を探ります。

テーマ 100万都市の文化創造

日時 2008年10月26日(日) 11:00～18:45

会場 第1部：東北大学100周年記念会館
(旧川内記念講堂) 川内萩ホール
第2部：せんだいメディアテーク 1階

アクセス

①東北大学100周年記念会館 川内萩ホール

<仙台市営バス>仙台駅前

・9番乗り場「宮教大・青葉台」行、「青葉通経由動物公園循環」行、「東北大川内キャンパス」下車(約15分、180円)

詳細：http://www.tohoku.ac.jp/japanese/access_map/map-kawa.htm

②せんだいメディアテーク

<地下鉄>仙台駅から泉中央行きで3分、勾当台公園駅下車。「公園2」出口から徒歩6分(約450メートル)。

<バス>仙台市営バス 仙台駅前-29番(荘内銀行前)乗り場から「定禅寺通市役所前経由交通局大学病院」行き(系統番号J410)で約10分、メディアテーク前下車。

<タクシー>仙台駅西口タクシー乗り場から約7分。

詳細：<http://www.smt.city.sendai.jp/info/access/>

[参考] 8:28 東京発 [はやて7号] ⇒ 10:11 仙台着、
19:26 仙台発 [はやて32号] ⇒ 21:08 東京着

参加費

- ①施設見学会+基調講演&シンポジウム：
一般 2,000 円、学生 1,000 円
- ②基調講演&シンポジウムのみ：一般 1,000 円、学生 500 円
- ③懇親会：5,000 円

申込方法 ①参加希望の内容（施設見学会・基調講演&シンポジウム・懇親会）、②一般か学生か、③氏名（ふりがな）、④所属、⑤連絡先を FAX またはメールにて、下記までご連絡ください。

申込先 東北大学大学院都市・建築学専攻 建築空間学講座
担当：坂口・森山

〒 980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-6

tel・Fax **022-795-7882**

E-mail **sympo@hjogi.pln.archi.tohoku.ac.jp**

主催 文化経済学会<日本>

共催 せんだいメディアテーク、東北大学



第1部 11:00~12:00
施設見学会+ミニコンサート

会場 東北大学 100 周年記念会館 川内萩ホール

10:30 受付

11:00~11:35 施設見学会

- ・全体主旨説明：小野田泰明（東北大学大学院都市・建築学専攻教授）
- ・施設説明：志賀野桂一（東北文化学園大学教授・東北大学 100 周年記念会館副館長）

11:40~12:00 ミニコンサート

- ・二台のピアノによる演奏（奏者 中川賢一・高橋麻子）
- *各自移動（徒歩 30 分程度）



第2部 13:45~18:45
基調講演+シンポジウム+懇親会

会場 せんだいメディアテーク 1 階

13:30 受付

13:45~14:45 挨拶+基調講演

- ・開会挨拶：清水裕之（名古屋大学教授/文化経済学会<日本> 理事長）
- ・共催者挨拶：佐藤 泰（せんだいメディアテーク副館長）
- ・基調講演：「創造都市論の再構成」佐々木雅幸（大阪市立大学教授/文化経済学会<日本>会長）

15:00~17:30 シンポジウム「創造性を支える都市空間」

- ・パネリスト
衛紀生（可見市文化創造センター館長兼劇場総監督）
村上タカシ（宮城教育大学准教授/美術家）
西出優子（東北大学経済学部准教授）
- ・コーディネータ
坂口大洋（東北大学大学院都市・建築学専攻助教）
- ・コメンテータ 小林真理（東京大学准教授）

17:45~18:45 懇親会 せんだいメディアテーク 1 階
「クレプスキュール」

文化経済学会<日本>第IX期新役員が決定

文化経済学会<日本>第IX期（2008-2009 年度）の新役員が決まりました。4月2日に開催された第VIII期第8回理事会において、先に行われた役員選挙の結果を踏まえ、新役員が別表のとおりになりました。また、7月5日の第IX期第1回理事会において、清水裕之理事が理事長に選出されました。（08年7月5日理事会承認）

文化経済学会<日本>第IX期(2008-2009 年度)新役員

会長	佐々木 雅幸	大阪市立大学
副会長	後藤 和子	埼玉大学
理事長	清水 裕之	名古屋大学
個人理事	有馬 昌宏	兵庫県立大学
	伊藤 裕夫	富山大学
	衛 紀生	可見市文化創造センター
	小野田 泰明	東北大学
	垣内 恵美子	政策研究大学院大学
	片山 泰輔	静岡文化芸術大学
	勝浦 正樹	名城大学
	加藤 種男	(財)横浜市芸術文化振興財団
	川崎 賢一	駒沢大学
	河島 伸子	同志社大学
	北村 裕明	滋賀大学
	草加 叔也	(有)空間創造研究所
	小林 真理	東京大学
	阪本 崇	京都橘大学
	佐々木 晃彦	九州共立大学
	佐々木 亨	北海道大学
澤村 明	新潟大学	
徳永 高志	(特活)アートNPO カコア	
友岡 邦之	高崎経済大学	
永井 多恵子	文教ジャーナリスト	
中川 幾郎	帝塚山大学	
中谷 武雄	京都橘大学	
根木 昭	東京藝術大学	
野田 邦弘	鳥取大学	
端 信行	兵庫県立歴史博物館	

藤野 一夫	神戸大学
藤原 恵洋	九州大学
増淵 敏之	法政大学
松田 芳郎	青森公立大学
美山 良夫	慶應義塾大学
山田 太門	慶應義塾大学
大和 滋	(社)日本芸能実演家団体協議会
吉田 和男	京都大学
吉本 光宏	(株)ニッセイ基礎研究所
個人監事	若松 美黄 日本女子体育大学
団体理事	(社)日本芸能実演家団体協議会 (株)文化科学研究所
団体監事	(社)企業メセナ協議会
顧問	池上 惇 京都大学名誉教授

梅棹 忠夫	国立民族学博物館
倉林 義正	一橋大学名誉教授
中村 隆英	東京大学名誉教授
永山 貞則	日本統計協会
福原 義春	企業メセナ協議会
三善 晃	作曲家
山田 浩之	京都大学名誉教授

訃報

発足当時からのご顧問の齋藤守慶氏（毎日放送最高顧問／大阪文化団体連合会代表）が、6月4日虚血性心疾患で逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

2009 年度研究大会—可児大会— <予告>発表者募集

2009(平成 21)年 6 月 13 日(土)・14 日(日)の 2 日間にわたり、「2009 年度文化経済学会<日本>研究大会—可児大会—」を「可児市文化創造センター」(岐阜県可児市)にて開催いたします。

可児市文化創造センター [ala/ アーラ] は、2002 年に開館し、衛紀生理事が館長兼劇場総監督を務めています。アーラならではの企画が検討されていますので、どうぞご期待ください。

アクセス 名古屋駅から 1 時間～1.5 時間

【名鉄ご利用の場合】 名鉄名古屋駅 (約 50 分) ⇨ 日本ライン今渡駅 (タクシー約 5 分、または徒歩 10 分)

【JR ご利用の場合】 JR 名古屋駅 (約 40 分) ⇨ 多治見駅 (約 50 分) ⇨ 可児駅 (タクシー約 5 分、または徒歩 30 分)

2009 年度研究大会での発表者募集は、学会メーリングリスト・学会ウェブサイトなどでもご案内いたしますので、発表をご検討されている方はご参照ください。

<申込締切> **2009 年 1 月 30 日(金)[必着]**

<発表者の条件>

- ①発表希望者は会員に限ります。(非会員で発表希望の方は、入会申込書も同時にご提出ください。理事会にて承認されれば、発表することができます。)
- ②予め発表日時を指定することはできませんので、両日とも参加できることが必要となります。
- ③年会費を滞納していないこと。

<申込先>文化経済学会<日本>事務局

E-MAIL info@jace.gr.jp **FAX** 03-5909-3061

TEL : 03-5909-3068

<今後の予定>※スケジュールは変更になる可能性もあります。

2 月初旬 プログラム委員会にて、座長・討論者など検討

4 月初旬 予稿論文の提出

5 月上旬 フルペーパーの提出

ご寄贈ありがとうございました。

「創造都市・横浜の戦略—クリエイティブシティへの挑戦—」野田邦弘著、学芸出版社、2008 年 8 月<著者寄贈>
「グラスルーツ・シアター—アメリカの地域芸術を探して—」ロバート・ガード著・秋葉美知子訳、美学出版、2008 年 8 月<訳者寄贈>

「関西文化産業戦略」近畿経済産業局編、(財)経済産業調査会発行、2008 年 6 月<発行者寄贈>

「関西のアニメ産業の実態把握と国際競争力強化の方向性に関する調査—アニメ制作における現状と課題を中心に—」経済産業省 近畿経済産業局発行、2008 年 6 月<発行者寄贈>

「関西スポーツ産業のポテンシャルと今後の方向性について」経済産業省 近畿経済産業局発行、2008 年 6 月<発行者寄贈>

「大阪市立大学大学院 創造都市研究科 紀要：創造都市研究 第 3 巻第 2 号」大阪市立大学大学院 創造都市研究会 佐々木雅幸発行、2008 年 5 月<発行者寄贈>

決算報告

札幌大会で開催された総会で、2007年度収支決算および2008年度収支予算が承認されました。(2008年7月6日)

文化経済学会<日本>2007年度収支決算書 (2007.4.1-2008.3.31)

<収入>	予算額	決算額
会費収入	6,800,000	6,420,000
個人会費	6,000,000	5,720,000
団体会費	800,000	700,000
研究事業収入	1,200,000	1,413,000
大会参加費など	1,000,000	1,213,000
助成金	200,000	200,000
普及事業収入	1,200,000	1,921,788
講演会参加費など	100,000	108,000
出版物収入	100,000	58,990
学会誌収入	1,000,000	1,754,798
雑収入	10,000	4,066
事業調整積立金取崩	0	0
当期収入合計	9,210,000	9,758,854
前期繰越金	2,808,300	2,808,300
収入合計	12,018,300	12,567,154

<支出>	予算額	決算額
研究事業費	4,800,000	4,711,632
研究大会	1,500,000	1,315,207
論文集	2,700,000	2,932,965
編集費	300,000	286,070
送料	300,000	177,390
普及事業費	500,000	379,152
講演会	500,000	379,152
広報費	1,850,000	1,076,245
ニュース	550,000	431,549
編集費	250,000	300,170
インターネット	400,000	63,450
送料	650,000	281,076
学会運営費	4,280,000	3,274,477
理事会	100,000	71,377
理事会交通費補助	1,200,000	704,010
名簿	650,000	351,808
事務委託	360,000	360,000
臨時雇賃金	1,500,000	1,550,654
通信費	180,000	115,939
消耗品費	190,000	111,088
雑費	100,000	9,601
予備費	88,300	0
事業調整積立金繰入	500,000	1,000,000
当期支出合計	12,018,300	10,441,506
(当期収支差額)	(-2,808,300)	(-682,652)
次期繰越収支差額	0	2,125,648
合計	12,018,300	12,567,154

貸借対照表 (2008.3.31)

資産の部	負債及び正味財産の部	
	2006	2007
現金	154,355	114,055
銀行普通預金	764,350	1,234,384
銀行定期預金	2,512,528	2,514,298
郵便振替口座	3,003,985	3,692,115
未収入金	0	426,000
負債 未払金	2,412,304	3,749,840
前受金	190,000	80,000
預り金	0	750
借入金	0	0
正味財産	3,832,914	4,150,262
	(うち事業調整積立金 1,500,000)	(うち事業調整積立金 2,500,000)
合計	6,435,218	7,980,852
合計	6,435,218	7,980,852

■文化経済学会<日本>2008年度収支決算書

<収入>	2007予算額	2008予算額
会費収入	6,800,000	6,700,000
個人会費	6,000,000	6,000,000
団体会費	800,000	700,000
研究事業収入	1,200,000	1,000,000
大会参加費など	1,000,000	1,000,000
助成金	200,000	0
普及事業収入	1,200,000	1,500,000
講演会参加費など	100,000	100,000
出版物収入	100,000	100,000
学会誌収入	1,000,000	1,300,000
雑収入	10,000	10,000
事業調整積立金取崩	0	0
当期収入合計	9,210,000	9,210,000
前期繰越金	2,808,300	2,125,648
収入合計	12,018,300	11,335,648

<支出>	2007予算額	2008予算額
研究事業費	4,800,000	4,700,000
研究大会	1,500,000	1,500,000
論文集	2,700,000	2,700,000
編集費	300,000	300,000
送料	300,000	200,000
普及事業費	500,000	500,000
講演会	500,000	500,000
広報費	1,850,000	1,250,000
ニュース	550,000	550,000
編集費	250,000	300,000
インターネット	400,000	100,000
送料	650,000	300,000
学会運営費	4,280,000	4,260,000
理事会	100,000	100,000
理事会交通費補助	1,200,000	1,200,000
名簿	650,000	650,000
事務委託	360,000	360,000
臨時雇賃金	1,500,000	1,600,000
通信費	180,000	150,000
消耗品費	190,000	150,000
雑費	100,000	50,000
予備費	88,300	125,648
事業調整積立金繰入	500,000	500,000
当期支出合計	12,018,300	11,335,648
(当期収支差額)	(-2,808,300)	(-2,125,648)
次期繰越収支差額	0	0
合計	12,018,300	11,335,648



会費納入のお願い

新年度となりましたので、2008年度会費（個人1万円／団体10万円）の納入をお願いいたします。振込用紙は『NL.65』に同封しておりますので、どうぞご利用ください。（再発行はいたしませんので、ご了承ください。紛失された方は、ゆうちょ銀行窓口にある用紙をご利用ください。）

口座 郵便振替 00150-6-606423

文化経済学会<日本>

※退会希望の方へ

会費をお支払いにならないだけでは退会の扱いとはなりません。FAX・郵送・e-mailにて、退会届をご提出ください。理事会での承認を経て、正式に退会となります。

退会届：①氏名、②会員番号、③所属、④連絡先、⑤退会理由